

今週のメニュー

■トピックス1

◇第22回中央区 子どもとためす環境まつりに出展～中央区立中央小学校～

■トピックス2

◇PVC NEWS No.125 号発行

塩化ビニル環境対策協議会

■トピックス1

◇第22回中央区 子どもとためす環境まつりに出展～中央区立中央小学校～

10月25日（土）、中央区環境保全ネットワークが主催する体験型環境イベント『第22回 子どもとためす環境まつり』が、東京都中央区立中央小学校で開催されました。塩ビ工業・環境協会は、たこ焼き器を使ったオリジナル消しゴム作り教室を出展しました。

『子どもとためす環境まつり』は「中央区の区民と企業、行政が連携して環境保全に取り組み、より良い地球環境を次世代に残す」という目的の下、中央区環境保全ネットワークにより立ち上げられました（2002年）。以来、体験型の環境イベントとして、中央区内の小学校で毎年開催され、今年で22回目の開催となります。参加する企業・団体は22団体、小学校10校。VECは環境学習の応援として、2009年から毎年参加しています。



VECのブースでは、昨年も好評を博した消しゴム作りを5回、約50名の子供や大人に体験して頂きました。消しゴムの原料（ペースト塩ビゾル）6色を全部使ったたこ焼き器の穴に少しずつ何度も入れる子や、つまようじでマーブル模様をつくる子も。30分後、半円型の世界に1つだけの消しゴムの出来上がり。取り出すと驚きの表情を浮かべ、



消しゴムづくりの様子



塩ビ製品展示コーナーの様子

子供達からは「早く使ってみたい!」「あったかい!」など歓声があがりました。

一方、展示コーナーでは、身の周りの様々な塩ビ製品を展示（食品サンプル、塩ビラップ、ウィッグ、縄跳び、壁紙、床材など）。実際に手に取って頂きながら、塩ビの約 60% が塩に由来していることや身近な塩ビ製品について説明。プラスチックの重さ比べコーナーでは汎用プラスチックの成型品（5 種類、同じ容積の塊）を重さの順に並べ替え、ゲーム感覚で楽しみながら、重さの違い（比重差）によって実際にリサイクルが行われていることを説明しました。他には 3 種類の硬質塩ビの動物クラフト、軟質塩ビの小物入れ、パンフレットをお持ち帰り頂きました。

当日は肌寒く雨が降る中での開催でしたが、多くの方に訪れて頂きました。途中にはサーモンプロジェクト※の OB の方が訪れ、VEC のブース内容と塩ビについて取材をされ、消しゴムづくりも体験して頂きました。

実行委員会の方々、中央小学校の関係者の方々の努力で今年も無事に終わることが出来ました。VEC は今後も同様のイベントに積極的に参加し、塩ビの広報活動を推進したいと考えます。

今回、ご紹介した『子どもとためす環境まつり』は様々な分野・ブースで地球の環境保全について体験しながら学んでもらうイベントです。子供たちのみならず環境を大切にする思い、そして、自分に何ができるのかを改めて問い直す良い機会を提供していると感じます。中央区環境保全ネットワークの活動が益々拡大していくことを期待しております。

※ 成長した鮭（サーモン）が生まれ育った川に戻ってくるように、中央区で育った子供がいろいろな経験を通して成長し、大人になって中央区に戻り、活躍してほしい、中央区を活性化してほしいという願いが込められたプロジェクトとのこと（主催：中央区環境保全ネットワーク）。

◇PVC NEWS No.125 号発行

塩化ビニル環境対策協議会

塩化ビニル環境対策協議会（JPEC）は、PVC NEWS No.125 号を発行しました。今回から編集方針を一新しています。これまでは毎号ごとにテーマを設け、そのテーマに沿った取り組みを取材し技術的背景などを深く考察した記事やインフォメーションとして新しい塩ビ製品の情報などを詳しく紹介してきました。

JPEC は塩ビの川上から川下までの団体で構成され、また、それぞれの団体の会員が協賛企業となっている比較的すそ野の広い組織となっています。このことから、深掘した情報提供に特化せずに、より幅広い旬な活動情報やイベント情報、塩ビ産業をとりまくさまざまな情報や取り組みについて気軽に読める方が、より読者の皆様の興味や関心を引くのではないかと考えています。併せて編集委員会を設け、各団体の積極的な協力のもと編集体制を刷新しました。以下、トピックス、インフォメーションについて 125 号の内容をいくつか紹介します。

トピックス 新素材開発から産学連携まで。可能性を広げる素材メーカー

（カンボウプラス株式会社）

素材メーカーとして日本の産業を支えてきたカンボウプラス(株)。2025 年に開催された大阪・関西万博で目を引いたのが、日本ガス協会出展の「ガスパビリオン おばけワンダーランド」の屋根に使われた膜材。SPACECOOL(株)の開発したフィルム(「SPACECOOL®」)を使用し、同社とカンボウプラス(株)で共同開発した膜材料「REI KEEP」をシルバー色で製造した特注品です。

「SPACECOOL®」は、ゼロエネルギーで冷却を可能にする新素材でカンボウプラス(株)は、このフィルムに繊維と樹脂を組み合わせ、屋外使用のための耐久性を持たせる役割を担いました。

万博との関わりは、資材の提供を通してだけではありません。2025 年 6 月 2 日～4 日、万博会場内で開催された「ロハスフェスタ EXPO2025」にもブースを出展しました。ブース内には、自社のアップサイクルブランド「DIGREAL」の商品が並びました。トラックの幌やコンテナバッグといった PVC 素材の端材などを活用して作られたバッグや小物です。また、粘着テープや端材を自由に使ってチャームなどを作るワークショップも開催され、子どもから大人まで多くの来場者が作品づくりに夢中になりました。



ロハスフェスタのブースで人気を集めた商品がありました。「REI KEEP」素材のペットボトルホルダーやポーチです。これは、カンボウプラスとBFGU（文化ファッション大学院大学）との産学連携プロジェクトで生まれた商品でした。

開発を担当した学生の翁長さんは使用した素材「REI KEEP」について、「光沢があって、商品として見栄えがするなと思いました。それに厚みに高級感も感じました」とその印象を語りました。



REI KEEP を使った電子タバコケース・ポーチ・ペットボトルホルダー

インフォメーション①「手作業の自動化へ挑む。協働ロボット内製プロジェクト」

（有限会社ウエルダー北沢）

（有）ウエルダー北沢は 1962 年創業。塩化ビニルやウレタンといった素材を「高周波ウエルダー加工」で溶着・溶断し、文具や包装資材などの製品を手掛ける会社です。

今回紹介するのは、「軟質・枚葉（あらかじめ規定のサイズにカットされたシート）もの」の手作業を自動化するため、専門業者に頼らない協働ロボットによる「完全内製」への挑戦です。



証券ファイル

同社の主力製品のひとつは、塩化ビニル製証券ファイル。手触りや質感に高級感を演出するため、芯材に発泡ウレタンシートを貼り合わせる工程があります。この工程は、乾燥待ちや品質のばらつきを生む手作業に長年依存し、生産性のボトルネックとなっていました。静電気などの影響を受けやすく自動化が極めて難しい。これは業界共通の課題でもありました。

その難題に挑んだのは、同社顧問北沢宗一氏が自身の事業継承を進めていた時期。「現場を退くまでの 1 年間で、会社の未来への布石となる挑戦を」との思いから、プロジェクトが始まりました。

初めてのロボット完全内製開発は「現場の、現場による、現場のためのモノづくり」をコンセプトに進められました。静電気ですぐに薄いウレタンシートがまとわりついて 1 枚ずつ分離できず、寒さで衝突検知機能が過敏になったサーボモーターは度々停止するなど、開発は困難を極めました。試行錯誤の末、シートの分離問題については自作のグリッパーで「つまむ」という画期的な解決策にたどりつきます。その他の問題についても柔軟な発想で解決し、4~5 ヶ月してようやく安定して稼働できる形が完成しました。まさに材料の購入からプログラミング、調整まですべてを自社でやり遂げました。



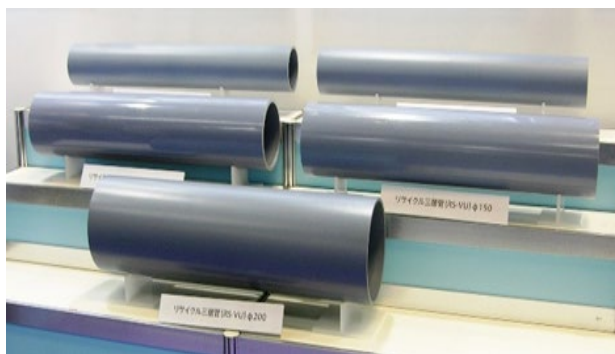
インフォメーション② 100年先も安心・安全な社会を支える。「下水道展 '25 大阪」出展／塩化ビニル管・継手協会

塩化ビニル管・継手協会は2025年7月29日から8月1日にかけて、インテックス大阪で国内最大の下水道関連展示会「下水道展 '25 大阪」に出展しました

現在、下水道は施設の老朽化に伴う改築や、頻発する豪雨への浸水対策など多くの課題を抱えています。そこで、塩化ビニル管・継手協会の展示では社会インフラが直面する課題解決に貢献する塩ビ管の優れた性能を来場者に伝えました。



長寿命の塩ビ管、硫化水素への耐性、パイプからパイプへのリサイクルをテーマに、実際埋設されていた塩ビ管やデータを用いたパネル等により、6つのテーマと双方向な展示を通して塩ビ管のもつ特徴を紹介しました。



リサイクル発泡三層管



30年使用し埋設されていた塩ビ管

これからも、私たちの生活を支えている塩ビが環境・社会に貢献している情報を引き続きお届けしたいと思います。PVC NEWSのご講読（無料）を希望される方は、下記メールアドレスまで、送付先・電話番号・希望部数をご連絡下さい。よろしくお願い致します。

info@vec.gr.jp

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <https://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp